



発行所
 社団法人 国民文化研究会
 (九州←→東京←→全国)
 東京都渋谷区東1-13-1-402
 振替 00170-1-60507
 電話 03-5468-6230
 F A X 03-5468-1470

月刊「国民同胞」編集部
 毎月一回10日発行
 購読料 年間2000円

皇孫悠仁親王さまのご誕生を寿ぐ

須田清文

平成十八年九月六日朝、秋篠宮文仁殿下と紀子妃殿下に親王さまがご誕生になりました。親王さまのご誕生は四十一年ぶりといふご慶事で、心からお祝ひ申し上げるとともに御皇室の弥栄をお祈り申し上げます。

こころまちし親王殿下のご誕生を知らせるテレビを見るぞうれしきいかばかり御喜びになられしか皇孫生れつく辛を仰ぎて

九月十二日、命名の儀にて「悠仁」さまと名づけられ、お印は「高野槇」と決められました。お名前を拝して思はず「悠久の古からつづいてきた日本をもう一度見直し、そこから立ち直る道を見出さなければいけない」といふ前理事長小田村寅二郎先生のお言葉が蘇ってきました。

「凡そ我が国に於いては民族共通

の祖神に対する信仰が常に団体生活の統一的生命として貫通し、祖神の正統にまします皇室を宗家として、同一血脈に連る同一国語民族が、世界に比類なき家族的国家を形成し来つたのである」(黒上正一郎先生の御著書から)

日本は皇室を戴く世界に比べるもののない国なのです。「我が民族の神話に於いては皇祖の大神は応報の道理を司り給ふ神格でもなく、又天地創造の宇宙神にいますのでもない。皇祖を始めまつり多くの神々は畏怖的崇敬の対象ではなく、とこしへに子孫を護り照しみちびき給ふところの祖神として、親しく仰がれ且つ祈られたのである」(同前)。

この度のご慶事に際して、私の回りの人達の会話が、喜びの中にも暫

くすると、何となくごちなく感じられたのは、「神」の解釈の誤りから来てゐるやうに思はれました。

「天皇御自身は、『神』または『現人神』と自称されたことは、有史以来一度もなかった」「『現人神』は『全知全能のゴッドがこの世に生きていて天皇として立っている』という意味では全然なく」「天皇の『まごころ』を国民側から讃えた言葉であり、かつその意味は、『生きておられる方としては、他に比類なきほどの『まごころ』の持主であられる』との意味であった」(小田村寅二郎著『日本思想の源流』)歴代の天皇さまの『まごころ』の結晶である和歌「御製」を拝誦して、「神」への御思ひをお偲び申し上げたいと思ひます。

伏見天皇(第九十二代)

世をまもる神のこころをかへりみておろかにたらぬ身をぞ恐るる

霊元天皇(第一百十二代)

おこたらず祈る手向の言の葉はおろかなるをも神やうくらむ

孝明天皇(第一百二十一代)

神ごころいかにあらむと位山おろかなる身の居るもくるしき

天皇といふ至高の御位(位出)にをられる方々が神に向はれて、御自分

の心のすべてを捧げて日々祈つてをられるお姿が有難く拝察されます。

昨年十一月、「皇室典範に関する有識者会議」が報告書を提出して以来、改正問題がジャーナリズムで論議されてきましたが、親王さまのご誕生で先送りとなりました。世界に比肩するものなき皇室の家法を今日的な判断だけで「女系・長子優先」とするのは厳に慎むべきだと思ひます。

小田村寅二郎先生は最後にお話を伺つた折に「日本が本来の国家になるためには七百年かかる」と言はれました。加納祐五先生は「日本の国柄の真髄は、測り知れない御心勞のうち心に開いて、日夜、国民の上を思はせられる天皇の御心に感応して、これにお応へしようとする国民との間の君民感応相称の精神世界にある」と書かれてをります。

明治天皇(百二十二代)

ちはやぶる神の心にかなふらむわが国民のつくすまごころ

悠仁親王さまが連綿として続くご皇室にご誕生になられたことを寿ぐとともに、何百年かからうとも『まごころ』をつくして本来の日本へ立ち直る道を進もうとの思ひを新たにしています。

(羽後信用金庫支店長代理 数へ五十一歳)